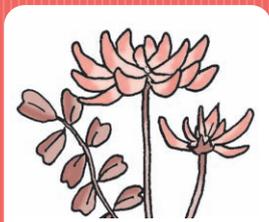


ばんげい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち

教育の小径

2010年
4月号
No.18

今月の花／レンゲソウ
花ことば／私の幸福 心がやわらぐ



今月の歳時記

朧月
（おぼろづき）

春の夜に見られる、ぼんやりとかすんでいる月のことです。黄砂の影響によって起こると言われています。信州の自然をこよなく愛した高野辰之が作詞した、文部省唱歌「朧月夜」はよく知られています。その一番に「さながら霞める 朧月夜」とあります。長野県野沢温泉村には「朧月夜記念館」があります。



北 俊夫先生
国士舘大学教授

今月のテーマ 話し合いをどう組織するか

- 話し合い活動には、みんなでよりよい考えを創り出すとともに、自分の考えをより確かな内容に高めるという役割があります。
- 話し合いを活発にするためには、教師が一人一人の子どもに自分の考えをしっかりとせるとともに、話し合いの仕方やルールを指導します。

なぜ、話し合うのか

いま、授業で言語活動を充実させることが課題になっています。話し合いも言語活動の一つです。

話し合いには、それぞれが自分の考えを出し合い、みんなで吟味し合いながらよりよい考えを創り出すという目的があります。一般に「集団思考」と言われています。

一人一人が考えることはとても大切なことです。しかしそれだけでは、どうしても限界があります。友だちと話し合うことによって、自分の考えの足りないところに気づいたり、違った考えに学んだりすることができます。その結果、自分の考えを深めたり広げたりすることができます。話し合いは、自分の考えをより確かなものにするためにも行われます。

学校は「学びの共同体だ」と言われ



ています。話し合いは学校ならではの学びです。話し合いをとおして豊かな人間関係をつくることができます。

話し合いのさせ方のポイント

最近、学級などで話し合い活動が成立していないと聞きます。一人一人が一方的に発言や発表や報告はできて、子どもたちの間でもかかわり合いが見られず、「話し合い」になっていないというのです。

話し合いを成立させるためには、次のような教師の手だてが必要です。

- ・話し合うためには、できるだけ具体的なテーマが必要です。これは教師の発問や指示の内容と深くかかわっています。
- ・子ども一人一人に自分の考えをしっかりとさせます。そのためには、事前に時間を十分にとり、ノートに書かせるとよいでしょう。
- ・前の子どもの発言内容と結びつけて発言させます。友だちの意見を自分の意見をつなげて聞かせ、賛成か、反対か、質問か、他の意見かなど意思表示させて発言させます。
- ・何でも言い合える自由な雰囲気が醸

し出されている必要があります。助け合い、支え合う人間関係をつくるのが欠かせません。

子どもたちに発言を促したり、コントロールしたりするのは教師です。子どもたちの表情や動きを見ながら、子どもに発言を促します。教師は意図的に指名することが重要になります。教師による指名は、話し合いの中身や方向を大きく左右します。

話し合いのルールをつくろう

社会生活にルールがあるように、話し合うときにも、最低限のルールを作っておく必要があります。

例えば、発言するときには挙手すること、指名されてから発言すること、発言者は友だちの方を向いて分かりやすく発言すること、聞き手は発言者を見て、最後まで聞くこと、次の発言者は前の発言内容につなげて発言するように努力することなどを指導します。

また、「話形指導」と言われるように、発言の仕方を具体的に指導することも大切です。発言の内容を手の指で合図させる方法もあります。ハンドサインと言われています。

道徳の時間の指導は、原則として学級担任が行っています。そのため、担任によって差異が見られ、学校としての統一性や一体感に欠けるという指摘がありました。こうした課題を踏まえて、新学習指導要領には「道徳教育推進教師」を中心に校内の指導体制を充実させることが示されました。

道徳教育推進教師はどのような役割を担うのでしょうか。道徳の学習指導要領「解説」によると、指導計画の作成、道徳の時間の充実、教材の整備・充実・活用、情報の提供と交換、家庭や地域社会との連携、研修の充実など、道徳教育の推進に関するさまざまな事柄があげられています。

これまで、道徳教育は全教育活動を通して、全教師が共通の課題意識をもって推進することが重視されてきました。しかし必ずしも十分に実現されなかったようです。

各学校において設置される道徳教育推進教師が、こうした課題解決の起爆剤として十分に機能することが求められています。



子どもたちは、教室での自分の座席がどこか。好きな友だちの座席はどこかということに極めて高い関心をもっています。子どもの座席をどう決めるかは、学級経営の基本にかかわる教師の重要な仕事です。

子どもの座席の決め方には大きく二つあります。一つは教師が決めることであり、いま一つは子どもたちに委ねることです。しかし、後者の場合、小学生にとって個人の好みが先行して、仲間外れが出てくるなど、望ましくない結果になりがちです。

座席は、掃除をしたり給食を食べたりするなど生活の基本になります。グループ学習の際にも活用されます。子どもたちの座席は学校生活において重

要な影響を及ぼすことから、教師の指導方針にもとづいて意図的に決めるようにします。

一旦決められた座席は一定の期間固定されますが、子どもの意向や状況を見て、弾力的に変更する必要もあります。しかし、何より重要なことは、友だちのよいところを見つけ、互いに学ぶこと、誰とでも仲良くすることの大切さを指導することです。



教育キーワード 保護者への緊急連絡

これまでは、学校から保護者に緊急時の連絡を効率的に行うために、学級ごとに「緊急連絡網」を作り、各家庭に配布されてきました。担任は学級のPTA役員など数名の保護者に連絡することにより、そこから次から次にリレーしながら短時間に全保護者に伝えることができました。

ところが、最近、保護者への緊急連絡網を作ることができないという声を

聞きます。原因の一つに、個人情報の保護が重視されるようになったことがあります。また、保護者が家庭以外で仕事をするようになり、連絡が取りにくくなったこともあげられます。携帯電話が普及し、家庭に一般の電話を設置していない家庭もあるでしょう。

そのため、学校や担任は個々の家庭や保護者に連絡しなければならないという事態が起っています。

学級通信に使える今月のイラスト



1年生

さくら

編集後記

平成22年度の最初の号をお届けいたします。新学習指導要領が全面実施されるまであと1年。学校教育を取りまく課題が山積のなか、今年度も最新かつ的確な情報をお届けしたいと思います。

(H記)

Information (PR)

平成22年度 ばんげいテスト

『ピッタリのテスト』が選べます

A 基礎・基本
A 基礎・基本
N 活用
N 活用

N テスト 新発行

絶対評価 国語N
絶対評価 算数N
絶対評価 理科N
絶対評価 社会N

基礎・基本 + 活用力